

## 【臨床・研究】

## 中学生の不登校について—小児科医の考察

いずみ  
泉のぶ お  
信 夫

キーワード：不登校，一斉授業，学びの多様化学校，  
教育支援センター，フリースクール

## 要 旨

不登校生徒が増加し6.0%にもなる。公的教育の一斉授業に馴染めず，不登校傾向も含めると20%弱になる。多くは自分で追及したい学習やペースに合う指導を求めている。一緒に就いたところだが文科省は「学びの多様化学校」を，教育委員会は「教育支援センター」を設立した。民間にはフリースクール(FS)があるが多くの卒業資格が得られない。

小児科医は不登校の初期に心身不調で診察することが多い。受容することを説くと共に，適宜，上記の施設の紹介もしたい。更には，地域に施設が増えるよう努め，FSのある程度の基準化と卒業資格が得られるための方策についても考えたい。

## はじめに

文部科学省は「不登校児童生徒」の定義を「何らかの心理的，情緒的，身体的あるいは社会的要因・背景により，登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち，病気や経済的な理由による者を除いたもの」としている。2023年秋に2022（令和4）年度の小中学校児童生徒のそれが30万（299,048）人に及んだ事が公表され<sup>1)</sup>，マスコミで取り上げられ特集も組まれた<sup>2-4)</sup>。

急増にはCOVID-19禍の影響も指摘されるが，

児童生徒の不登校数は2012年から増加が続いている。他方，在籍者数（2022年度は944万人）は漸減しており，不登校児童生徒の割合は，2012（平成24）年度の1.09%，2017年度は1.47%となり2022年度には3.17%に達した<sup>1)</sup>。

小児科医も日常診療で心身症状を訴える不登校の児を診る。「葛藤した上での決意だから家庭では暖かく受け入れる」よう家族を説くが将来は心配でもあった。

文科省は2023年3月「誰一人取り残されない，学びの保障に向けた不登校対策」COCOLO（Comfortable, Customized and Optimized Locations of learning）プランを掲げたが<sup>5)</sup>，その一つに「学びの多様化学校（2023年8月までは“不登校特例校”と称された）」がある<sup>3,5)</sup>。2004

Nobuo IZUMI

出雲市

連絡先：〒693-0021 島根県出雲市塩冶町909-3

出雲市